

2013年1月24日

各位

言語科学講演会・アспектフォーラムのお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

3月5日(火)に、「言語科学講演会・アспектフォーラム」を開催いたしますので、ご案内させていただきます。

学内外を問わず、どなたでも無料で参加でき、事前予約も不要です。お気軽にお越しください。

謹白

■神田外語大学大学院URL

<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/>

■お問い合わせ先

神田外語大学大学院 岩本研究室

電話 043-273-2671

email: iwamoto@kanda.kuis.ac.jp



神田外語大学大学院

言語科学講演会・アспектフォーラム No. 3

語彙的・文法的アспектの構造と心理

招待講演者：白井恭弘（ピッツバーグ大学教授・言語科学会会長）

コーディネーター：岩本遠億（神田外語大学教授）

日本語におけるアспектの研究は、テイル形の多様な意味を動詞が内在的に持つ意味の違いに還元できるのではないかという直感から始まりました。現在その意味の違いは、状態、動態、動き、変化といった対立的概念で捉えられるのが一般的です。しかし、それらはいつも対立的ではなく、その両方を併せ持つ事象があったり、一方から他方への移行が見られたりもします。言語を形式的に捉えようとするアプローチでは、このような対立、融合、移行という意味のダイナミックな特徴を表現する理論体系を考案することが心的実体の解明に繋がると考えます。一方、動きと変化という対立を言語習得や言語使用の実態から捉えようとするアプローチがあります。スルとシタ、シテイルとシテイタといった文法的テンス・アспект形式の使い分けが、動き、変化といった動詞の意味と直接的に結びつき、しかもそれが多様な言語で見られる傾向として存在すると主張しています。今回のフォーラムでは、両アプローチからの講演と研究発表をとおして、それらにどのような接点が見出されるかを考えます。特に後者の立場で学会を牽引しておられる白井恭弘氏（ピッツバーグ大学教授・言語科学会会長）に基調講演をお願いし、最新の研究についてのお話を伺うことにしています。

日時：2013年3月5日 13:30～17:30

場所：神田外語大学 2号館2-201教室

プログラム

【講演】

「意味のダイナミクス：アспект研究の変遷と課題」

岩本遠億 神田外語大学教授 13:30～14:30

【研究発表】

「脱形容詞動詞の限界性と構造」

藤原翔太郎 神田外語大学大学院生 14:40～15:10

「日本語母語話者のテンス初期習得に現れる『タ』の様相について」

久保一美 日本大学講師 15:20～15:50

【言語科学講演会】

「言語習得・処理・障害における普遍性はどこから来るのか

～テンス・アспектを中心に～」

白井恭弘 ピッツバーグ大学教授・言語科学会会長

16:00～17:30

●参加無料

●対象者：言語学、日本語学、言語習得、言語教育、言語心理学、応用言語学などの分野に興味がある方。